

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校の教育の特色であるデザイン及び芸術系列の専門性の進展をはかる教育を通して、真実を求め、勤労を尊び、美を愛する心を有する生徒の育成を目標とする。
また、総合学科でありながらも、ものづくりの実践を通して変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体という「知・徳・体」三つバランスのとれた「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。
- 1 命の大切さを理解し違いを認め合い、お互いを尊重し合う心を育てる。
2 生徒一人ひとりが自己実現を図り、主体的に進路選択することをめざす。
3 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
4 生徒と教員が信頼関係を築き、個々の生徒に寄り添い、学校が心の居場所となるよう努める。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
(1)本校は小・中学校で不登校を経験している生徒が在籍している。そのため、社会的自立をめざす観点から、個々の生徒の実態に応じた学習支援に努め、個々の生徒の学力を把握したうえで「わかる授業」「魅力ある授業」を効果的に実践し、生徒が達成感を味わい、自尊感情を高められるよう指導を行う。
ア 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
イ 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活動全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
ウ 指導と評価の一体化の視点から、授業改善に努める。
エ 生徒の状況や地域の実態に応じて、適切な教育課程を編成するとともに特色ある教育活動を展開する。
※ 授業アンケートにおいて、「授業は、わかりやすく楽しい」(R4:89%,R5:82%,R6:81%)の肯定的な回答 80%以上を維持する。
※ 生徒情報交換会は月2回を定例とし、加えて年2回の学年別授業担当者会議を開催する。(新規)
※ 卒業率を令和9年度まで90%以上を維持する。(R4:89%,R5:96%,R6:96%)
(2)「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
ア 支援教育コーディネーターを中心に、障がいに対する理解を深め、早期に個々の生徒の困り感を感じ取り、必要な支援に結び付けていく。
イ 個別の支援計画・指導計画の充実を図り、将来に渡って繋いでいく教育をめざす。
ウ 必要に応じて、保健・医療・福祉等の関係機関との連携を図り、SCやSSW等を活用する。
- 2 豊かな心と健やかな身体の育成
(1) 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
ア 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
イ 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、優れた生徒集団づくりを行う。
※ 学校アンケートにおいて「入学させて良かった」とする保護者の肯定的な回答90%以上を維持する。(R4:100%,R5:98%,R6:98%)
加えて、「入学して満足している」とする生徒の肯定的な回答90%以上を維持する。(R4:89%,R5:89%,R6:91%)
ウ いじめの防止、中途退学・不登校の未然防止を推進する。
エ 情報モラルの育成、学びに向かう環境づくりの充実を推進する。
オ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
(2) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり
ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。
イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には迅速で適切な対応を図る。
ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有を図る。
エ 家庭、地域との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。
オ 学校の教育活動中の事故防止等に取り組む。
- 3 将来をみすえた自主性・自立性の育成、キャリア教育の推進
ア 3か年を見通した進路指導計画に基づき、在校生の就労率や就労体験率を向上させる。
※ 卒業時の進路決定率を令和9年度まで年次向上させ、100%(就職は就労率)をめざす。(R4:85%,R5:79%,R6:81%)
イ 教員のキャリアカウンセリング力を向上させるための研修や外部人材の活用を推進する。
ウ 最終学年までに一人ひとりの生徒が自分の適性を知り、将来の進路を真摯に見据えた行動や態度を自発的に取れるよう取り組む。
- 4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり
(1) 校長のリーダーシップによる学校経営の確立
ア すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場環境づくりに努め、教職員の組織力の向上をめざす。
イ 危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。
ウ 自校の教育活動が体系的かつ継続的なものとなるよう、学校を取り巻く課題等の検討を図る。
(2) 学び続ける教員集団の形成
ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。
イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。
(3) 働き方改革への取組み
ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。
※ 教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させる。(R4 13時間52分,R5 14時間16分,R6 16時間24分)
イ 定時退庁の促進、一斉閉庁日の活用ならびに有効な休暇取得の促進を図る。
ウ 教職員の業務の負担軽減化・分散化を図り、健康増進・ストレス軽減に向け、働きやすい職場環境を実現する。
エ 各種ハラスメント防止に対する意識の啓発を図る。
オ 会議資料のデータ化、ICT活用による効率的な運営を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 教務 「わかる授業」「魅力ある授業」をめざした授業及び主体的な学びの態度となるよう努める。	(1) ア 学習進度の違いを補えるよう、教材を工夫する。生徒個々の学力に応じて「わかる授業」「魅力ある授業」を工夫・展開する。ノートの整理ができている（授業プリントの記入ができている）こと等を重視し、生徒が各自の力を発揮しつつ授業に取り組めるよう、各教科で教材を精選・工夫する。 イ 定期考査や小テストによって單元ごとの個々の理解度を確認し、振り返りを行う授業を展開する。定時制総合学科に見合う、より洗練された授業を展開する。 ウ 生徒の発達段階に応じた学習を推進する。	(1) ア 授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」肯定率 85%以上維持。[89%] ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率 75%以上維持。[76%] イ 授業アンケート「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」肯定率 80%維持。[90%] ウ 進級・卒業率 80%以上維持。[81%] ・不登校生徒に対する遠隔授業の実施に向けて、内規とマニュアルを作成し、指導体制を構築する。	
	(2) 支援教育 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進			
	ア 個々の生徒の困り感の早期把握	ア 新入生に対して出身校連携を行い、全教職員で情報を共有し、登校状況（欠日時数、行動観察、相談内容）と照らし合わせ、困り感の早期把握に努める。	ア 合格者の意向を踏まえ出身校と連携をとる。[新規]	
	イ 個別の支援計画・指導計画の充実	イ 本校、個別の教育支援計画・個別の指導計画様式、活用の浸透に向け、「個別の教育支援計画・個別の指導計画作成マニュアル」を活用し、各計画の記載内容の充実を図る。	イ 年2回の学年別授業担当者会議を活用し、記載内容の充実と見直しを行う。	
	ウ 保健・福祉・医療等関係機関との連携、SC、SSWの活用	ウ 支援教育相談主担や支援 Co. を中核として、スクールカウンセラーコーディネーター（SCCo）、スクールソーシャルワーカーコーディネーター（SSWCo）との連携を図る。支援教育サポート校の活用などを通じて、学校全体の支援教育力向上を図る。	ウ 各種 Co を含めた会議を月1回行う。 ・学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」肯定率 75%以上維持。[79%] ・学校教育自己診断「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。」肯定率 85%以上維持。[87%]	

2 豊かな心と健やかな身体 の育成	(1)生活指導 豊かな心と自律心、協調性を育む			
	ア 生徒の自主性の涵養と社会への奉仕活動の実践	ア スポーツ大会の種目企画・運営、七夕祭りなどの準備や広報、登校時の挨拶運動など生徒会が中心となる教育活動を進める。	ア 学校教育自己診断「奉仕等の体験学習が活発に行われている。」肯定率 60%以上。[39%]	
	イ 様々な学校行事や教育活動を通じた協調性を育む集団づくり	イ 選挙管理委員や生徒会執行部が取り組む生徒会選挙や文化祭などの行事の進行・運営を学校全体で協力できるよう体制づくりに協力する。また、部活動を充実させ、生徒が部活動に取り組む重要性を認識し、達成感や充実感を得ることをめざす。	イ 学校教育自己診断「行事（スポーツ大会、文化祭など）は、楽しく行えるよう工夫されている。」肯定率 85%以上維持。[85%]	
	ウ いじめの防止と中途退学の防止	ウ いじめアンケートを年 3 回実施し、当該生徒には丁寧な聞き取りを心掛け、学校全体で生徒情報を共有する。	ウ 学校教育自己診断「学校の生徒指導の方針に、共感できる。」肯定率 90%以上維持。[90%]	
	エ 情報モラルの育成と学びに向かう環境づくり	エ 情報社会で安全に生活するための危機管理の方法やセキュリティの知識を育成し、自身の健康への意識と社会的モラルを考える取組みとして、年 1 回、専門家を招いた講習会を開催する。	エ 生徒アンケート「講習内容が理解できた」肯定率 90%以上維持。[96%]	
	オ 自他ともに尊重し、互いを認め合える人権教育の推進	オ 人権学習として外部講師による教員向け、生徒向けの講演会を各 1 回以上実施する。 ・教員生徒共に人権に関する知識や、人権を擁護・促進するための技術および態度を養う。	オ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」肯定率 90%以上維持。[92%]	
	(2)生徒の個々に応じた適切な指導と支援体制の充実			
	ア 安全教育・交通安全教育の推進	ア 自転車交通安全講習を開催し、安全管理能力やトラブル回避・対処能力の向上に繋げる。	ア 生徒アンケート「講習会の内容が十分に理解できた」肯定率 90%以上維持。[96%]	
	イ 問題事象への迅速で適切な対応	イ 小規模校の特性を生かし、全教職員が全生徒の情報を共有し、迅速で適切な対応ができるように常に備える。 ・常に最新の生徒情報を得るために職員会議で定例化した生徒情報交換会を継続する。	イ 学校教育自己診断「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」肯定率 80%以上維持。[87%]	
	ウ 教育相談体制の充実と生徒情報の共有	ウ 生徒が相談しやすい生活指導課づくりを心掛け、生徒とのコミュニケーションの深化を図り、問題行動の未然防止につなげる。 ・教育相談委員会を毎月開催し、学校全体の教育相談体制の在り方の検討、生徒の教育課題の分析と対応、実際の教育相談を行い、学校全体の教育相談対応力向上に努める。	ウ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定率 90%以上維持。[92%]	
	エ 家庭、地域との連携と情報発信による開かれた学校づくり	エ 本校の定時制教育についてHPやブログ等を活用し情報発信を推進し、開かれた学校づくりをめざす。 ・学校HPの更新とブログの発信を適宜行う。	エ 学校 HP のブログ発信回数年間 60 回以上。[59 回] ・学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校の HP 等が活用されている。」肯定率 80%以上維持。[81%]	

府立工芸高等学校 定時制の課程

	オ 保健指導や美化意識の向上 自己の健康、体力の保持増進に対する生徒意識の向上及び美化意識の向上	オ 生徒の自己の健康に関する意識向上のために外部講師による講演会を実施する。 ・日々の感染症対策や清掃徹底日を設ける。	・学校教育自己診断「学校のHPをよく見る。」肯定率 55%以上。[52%] オ 健康に関する講演会を年3回以上実施する。 ・月1回（8・3月を除く）の清掃徹底日を継続し、校外清掃にも取り組む。	
3 将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1)進路 キャリア教育の推進 ア 進路指導体制の構築 イ 教員のキャリア カウンセリング力の向上	(1) ア HRや産業社会と人間等を活用し、1年次より計画的にキャリア教育を実施すると、アルバイトの推奨等も通じて社会参加意識と勤労観を育む。 進路指導課・学年団・SSW 等で連携を行い、卒業予定者の個別指導を充実させる。 イ 外部団体の講師を活用し、進路指導や生徒支援に関する教員研修を年1回以上実施する。	(1) ア 卒業予定者のうち学校幹旋による就職希望者の就職内定率 80%以上。[77%] 進学希望者の進学率 80%以上。[86%] ・卒業予定者の進路指導室(教室や図書室等も含む)の利用回数平均 15 回以上とする。[18 回] ・学校教育自己診断「この学校では、生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。」肯定的率 80%以上維持。[83%] イ 進路指導・生徒支援に関する研修の実施回数が 1 回以上。[1 回・4 回] ・学校教育自己診断「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」肯定率 90%以上維持。[91%]	
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	(1)校長のリーダーシップによる学校経営の確立 ア すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場環境づくりに勤め、教職員の組織力の向上をめざす。 イ 危機管理事案に対して、適切に対応できる組織となっているか、常に見直しを図る。 ウ 自校の教育活動が体系的かつ継続的なものとなるよう、学校を取り巻く課題等の検討を図る。	(1) ア 運営委員会が学校運営の中心となり校内の諸課題について検討や立案、調整の場とする。 職員会議などの場において、組織の位置づけについての周知を図り、組織的な運営の重要性の認識を高める。 イ 各分掌や学年、委員会などの意見を組織間で迅速に情報共有を図り、効果的な会議の運営を図る。 ウ 将来計画委員会で、今後の本校の方向性を検討するとともにミドルリーダーの育成と教職経験の少ない教員の学校運営への参画意識の醸成を図る。	ア 学校教育自己診断「学校運営が組織的に運営されている。」肯定率 80%以上維持。[83%] イ 交通安全に関する対応マニュアルの新規作成。 ・学校教育自己診断「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」肯定率 85%以上。[83%] ウ 学校教育自己診断「学校の教育活動について、教職員で常に話し合っている。」肯定率 100%維持。[100%]	

(2) 学び続ける教員 集団の形成					
ア	教職経験の少ない教員を対象とした校内研修などによる人材育成	ア	教職経験の少ない教員対象の校内研修の充実を図る。 ・各種研修対象者に有志を加えた授業力向上チームを作成する。 ・全日制と連携した授業見学を実施する。	ア	学校教育自己診断「経験の少ない教員を学校全体で育成する体制が整っている。」肯定率 60%以上維持。[61%]
イ	校内研修の計画的な実施	イ	企画委員会、運営委員会、将来検討委員会などを通して研修の精選や学校のニーズに合う研修の計画を行う。	イ	学校教育自己診断「校内研修について、計画的に研修が実施されている。」「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている。」の肯定率いずれも 85%以上維持。[87%・87%]
(3) 働き方改革に向けた取り組み					
ア	時間外勤務の削減	ア	学校部活動方針（休養日等）の遵守および、前項一斉退庁日の遵守を推進する。 ・月ごとの時間外勤務状況を労働安全衛生委員会で提示し問題点を確認する。	ア	教職員の平均時間外勤務時間を前年度より 5 %削減をめざす。 [16 時間 24 分]
イ	定時退庁の促進及び有効な休暇取得の促進	イ	時間外勤務の多い教職員に対し、必要に応じた指導や助言を行うとともに、月 1 回の産業医の訪問時に個別の面談を実施する。	イ	分掌等の業務を見直し、定時退庁の促進を図る。 年次休暇取得日を 15 日以上。[15 日]
ウ	働きやすい職場環境づくり	ウ	業務の分散化を図り、健康増進・ストレス解消に向け、働きやすい職場環境を実現する。	ウ	学校教育自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定率 80%以上。 [78%]
エ	ハラスメント防止に対する意識の啓発	エ	各種ハラスメントについて責任のある行動を求める。	エ	学校教育自己診断「この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い」肯定率 80%以上維持。[83%]
オ	会議資料のデータ化、ICT 活用による効率的な運営を図る	オ	グループウェア等を活用した校務運営による効率化を図る。 ・校務 PC を用いた会議の運用。 ・個人情報管理のためのルールの作成と周知徹底。	オ	校務 PC を用いた職員会議等の実施。 学校教育自己診断「コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている」肯定率 90%以上維持 [91%]